



1 スクールミッション

「ハイレベルな文武両道」の実践を通して、バランスの取れた社会のリーダーを育てる。「授業で勝負」を合言葉にした学習指導や、「ウィンズプロジェクト」を核とした進路指導、総合的な探究の時間や部活動等を通して視野の広さと人間性の豊かさを伸ばし、「一歩前に」の精神で、時代と人をリードし共生社会を築ける生徒を育成する。

2 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ア 目標を達成するために、失敗を恐れずに意欲的に挑戦し、豊富な知識や情報を活かして探究する。さらに、相手を尊重して物事を創造し、表現できる資質・能力を育成する。
- イ 国立大学の入学者を増やし、社会のリーダー層を輩出するため、文武両道を目指す進路指導計画「ウィンズプロジェクト」を中核とした、予備校に頼らない進学指導を一層推進する。
- ウ 社会人としての規範意識を醸成し、公共心を持ち自立した生徒を育成するために、生活指導の徹底を図るとともに、道徳教育を充実させる。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ア 幅広い知識と教養、深い洞察力を身に付けさせ、体力と感性を向上させるため、「授業で勝負」を合い言葉に基礎・基本の徹底を図る。
- イ 協調性や対人能力を向上させ、変化に対応する人間力を身に付けさせるため、学校行事等の特別活動や部活動の充実を図る。

(3) アドミッション・ポリシー

- ア 地域や社会に貢献する態度を育成するとともに、国際社会でリーダーシップを発揮する生徒を育成するために、知識の理解の質をさらに高めて、社会貢献活動や異文化交流等の充実を図る。
- イ 共生社会をリードする生徒の育成に向け、外部人材や関係機関との連携を通じた探究活動や本物活動を充実させる。

3 中期的目標と方策

東京都教育委員会指定「進学指導特別推進校」として、「将来の日本のリーダーとなり得る高い資質をもった生徒に対し、国家や社会に対する責任と使命を自覚させるとともに、思考力、判断力、表現力を鍛え国公立大学（四年制）、難関私立大学等への進学希望も実現させることのできる学校」を目指した取組を推進する。都民や地域の皆様の期待に応えられるよう、教職員が一丸となって、生徒がもっている能力を最大限引き出し、充実した高校生活と希望する進路実現の両立が可能であることを、引き続き検証していく。

(1) 学習指導 <質の高い授業実践により、確実な学力向上と能動的な学習を実現>

- ア 「授業で勝負」を合言葉に、質の高い授業実践を通して、生徒の学力向上を確実にするとともに、難関に挑戦しようとする意欲を引き出す。
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業の工夫・改善を重ね、生徒が生涯にわたって能動的に学び続ける態度につなげる。
- ウ 英語力の向上に向けて、授業だけではなく多角的なアプローチを実践する。
- エ 学ぶことの意義を理解させ、受動的な学習から能動的な学習へと転換を図る。
- オ 新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を目指し、教育課程を編成する。

(2) 進路指導 <「ウィンズプロジェクト」による進路指導の充実と生徒の進路実現>

- ア 本校の進路指導体系である「ウィンズプロジェクト」に「総合的な探究の時間」での探究学習を位置付け、生徒の主体的な進路意識を高める学習プログラムとして精選・充実を図る。
- イ ポートフォリオを中学校のキャリアパスポートと接続し、生徒の学びの振り返りや模試データを共有し、担任、教科担当、部活動顧問等がそれぞれの関わりの中で、生徒に最後まであきらめさせない進路指導を行う。
- ウ 幅広い教養と知力を身に付けさせるため、読書活動の推進を図るとともに、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての学校図書館の機能の充実に努める。

- エ 基盤となる英語力や国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力及び豊かな国際感覚を身に付けた人材を育成する。
- (3) **生活指導・健康教育** <規範意識を醸成し、自立した生徒を育成するための生活指導の徹底>
 - ア 計画的・継続的な服装・頭髪指導、登下校時の交通安全指導、自転車事故防止やヘルメット着用、SNSやスマートフォンの適切な使用、校内外での挨拶励行の指導を継続することにより、社会の一員として必要な行動規範を身に付けさせる。
 - イ 健康教育を推進し、生涯を通じて自らの健康を保持増進するための資質・能力を向上させるとともに、生徒のストレス対処に向けた心のケアに対応する教育相談体制の充実を図る。
 - ウ スクールカウンセラー、専門医、外部機関等と連携し、生徒の特性の把握と適切な支援を行う。
 - エ ホームルーム活動や生徒会活動の充実、体育祭、文化祭、合唱祭などの学校行事の一層の活性化を進め、生徒の自主性・自律性を伸長させるなど、調和のとれた人材を育てる。
 - オ 校内美化活動、ごみの分別、リサイクル活動等の充実を図り、環境問題への対応と校内環境の整備に努める。
- (4) **特別活動・体力向上** <体力・集中力の向上と人間性を育てるための特別活動の充実>
 - ア 部活動は、生徒の体力・技能・集中力の向上に向けて、合理的でかつ効果的に行う。学習との両立を基本とし、上位の大会やコンクールへの出場を目指す。
 - イ 「本物を見る・本物に触れる」活動を充実させ、探究に向かう意欲を引き出す。
 - ウ ボランティアに関わる体験活動の充実を図り、社会奉仕の精神の涵養に資する。
 - エ 海外の高校生等との交流活動を推進し、グローバル化に対応できる資質・能力を育成する。
- (5) **募集・広報活動** <広報活動の活性化と応募倍率の向上>
 - ア 本校の特色ある教育活動をホームページや学校説明会などあらゆる機会をとらえて積極的に発信し、学住接近のメリットを積極的に広報するなど生徒募集への取組みを強化する。
 - イ 地域に開かれた学校を目指し、地域からの支持をより強固なものとするため、地域町会との連携や地域貢献活動の展開、学校開放事業の推進に努める。
- (6) **学校運営・組織体制** <PDCAマネジメントサイクルを活用した学校運営の推進>
 - ア 教職員としての職責を十分に理解しより高い倫理観や規範意識をもつ職場作りを目指す。
 - イ 教職員が「チーム小松川」として、ライフ・ワーク・バランスを重視するとともに、やりがいや成長を実感できる職場環境を実現させる。
 - ウ 新しい時代に必要となる資質・能力の育成を踏まえ、教科等の枠を越えた「カリキュラム・マネジメント」を実現させる。
 - エ 学校施設・設備の円滑かつ効率的な活用と適正な管理・保全に努めるとともに、さらなる有効活用について検討を重ねる。

4 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

<目標> 「授業で勝負」を合言葉とし、質の高い学習指導に向けての授業改善を推進する。

<方策>

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組む。教員はファシリテーターとなり生徒の思考力育成に向けて、考えさせる発問やアウトプット（書く、話す、話し合う、発表する）を積極的に取り入れる。
- ② 課題、補習、小テスト等により基礎・基本の定着を図る。学習課題については内容の精選と教科間での調整により、生徒がその目的を理解し、主体的・計画的に取り組めるようにする。
- ③ 2年次の課題研究がより深い探究活動となるよう、これまでの成果と課題を基に8つに精選したテーマを基に外部機関との連携を視野に入れた探究活動を行う。また、理数研究拠点校として、探究部、学年、理科、数学科、情報科、理数系部活動等が連携し、理数探究活動を深化させる。
- ④ 英語の4技能をバランスよく育成するために、CAN-DOリストを中心として、本校英語教育のスタンダードを確立し、GE-NET EEとしての取組を推進する。共通テストや検定試験の結果を分析し、各技能の習熟度に応じた効果的な指導を行う。
- ⑤ デジタル技術を活用した教育の推進を図るため、ICT環境の利活用として、無線LAN (Wi-Fi) の利用や、「Microsoft Office 365」(Teams等)、ClassiNoteを全学年で活用する。
- ⑥ 図書館へ複数配布される新聞や「総合的な探究の時間」を活用し、主権者教育及び消費者教育を推

進する。

- ⑦ 年2回の「授業見せ合い月間」や生徒による授業評価を活用し、教科ごとに授業改善に取り組む。時間講師も含めた授業担当者全員で授業参観記録データ及び授業評価アンケート結果を共有し、授業改善のポイントを明確化する。また、教材の共有化、定期考査の共通化など、個々の実践を積極的に共有し組織的な取組につなげる。
- ⑧ 一人一人の生徒に応じた学習指導及び進路指導等が充実するよう、「定期考査採点・分析システム」・「統合型校務支援システム」の活用方法や本校における事例を共有し、組織的に活用を推進する。
- ⑨ 一人一人の生徒への組織的な支援が充実するよう、担任団、全ての教科担当者、スクールカウンセラー等で支援方針の確認を行う拡大学年会を実施する。

イ 進路指導

＜目標＞ 進学指導特別推進校として、本校独自の進路指導計画「ウィンズプロジェクト」を核とし、入学時点から3年間を見通した小松川の進路指導を進路指導部が中心となって推進し、塾・予備校に頼らず、高い目標を持たせた生徒の進路実現につなげる。

＜方策＞

- ① 個別最適化の学びを実現できるようにClassiやClassiNoteを活用する。面談計画に基づいた面談を実施し、生徒が安心して学べる環境づくりを推進する。
- ② 長期休業期間中の講習について、予備校や塾に頼らないことを前提にして、計画・実施する。
- ③ 自主学習を支援するため、放課後に自習できる環境（自習室及び学習支援員）を保証する。
- ④ 東大、東京科学大、一橋大、京都大、国公立大医学部及び国公立大学を目指す全生徒の進路実現を目指し、進路指導部と学年が連携した出願指導を行う。
- ⑤ 過去の模試データの分析を行い、本校生徒の千葉大学合格最低値を全教員の指導目標に定めるとともに進路校内研修により教員の進路指導力の向上を図る。模試分析概要及び各学年の進路指導等の実践については、職員会議等で共有し見える化を図る。
- ⑥ 模試結果データに基づいた資料を活用し、最後まであきらめさせない指導を行う。模試分析会に、学年及び教科主任、教科担当者が悉皆で参加し分析を行い、生徒に情報を還元する。
- ⑦ 入学時から生徒と保護者に東大を含め旧7帝大、東京科学大、一橋大、国立大医学部の難関大の魅力や良さを情報提供し、目標となるように進路部が中心となって、生徒・教員・保護者とともに学校の雰囲気づくりを醸成していく。進路行事への保護者参加や三者面談の実施、進路通信の発行等により保護者と連携した進路指導を展開する。
- ⑧ 1学年では、スプリングセミナー等により「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒間で共有し、家庭学習を一層促す。
- ⑨ 2学年では、高い志望をもたせるための「第一志望宣言」及び3年0学期のキックオフとしてウィンターセミナーを実施する。
- ⑩ GE-NET EEの取組を活用し、生徒の英語力の向上を図る。
- ⑪ 「総合的な探究の時間」などでの探究活動により、課題発見力、創造的・論理的思考力を養う。
- ⑫ 図書館、学年、教科の連携により生徒の読書活動を推進する。図書館だよりの発行、学習スペースの充実、授業や行事での活用等、「読書」「学習」「情報収集」の機能を充実させる。

ウ 生活指導・健康教育

＜目標＞ 社会人としての規範意識を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を目指す。また、生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう学習環境を整備する。

＜方策＞

- ① 本校生徒としての自覚と誇りともち行動するよう生徒に問いかけ、気付きを促し、考えさせる生活指導を継続する。
- ② 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を指導方針とし、全教員による一致した生活指導を行い、社会人としての規範意識を身に付けさせる。チャイム始業、身だしなみや校内外での挨拶励行の指導を継続する。時間厳守の基本である登校時間について、予鈴までの登校を徹底し、生徒の遅刻防止につなげる。
- ③ 服装等のルールの見直しを検討する生活改善プロジェクト(仮)を推進する。アンケート結果や話し合いの経過を全校で共有し、ルールの見直しについて全生徒が参画する取組を行う。
- ④ 交通ルールの遵守と自転車事故防止に向けた交通安全指導を行う。また、登下校時のマナーやSNSに

関するモラルやスマートフォンの適切な使用についての指導を継続していく。

- ⑤ 教育相談連絡会での情報共有、いじめアンケート、コンディションレポートを活用し、生徒の長期欠席やいじめを未然防止する。
- ⑥ 「SOSの出し方に関する教育」をホームルームや学年集会などで行い、SOSを出しやすい環境を作る。
- ⑦ 校内美化活動、ごみの分別、リサイクル活動について、日常の清掃活動の他、部活動及び行事等においても重点的に取り組む。

エ 特別活動・体力向上

＜目標＞ 特別活動での取り組みを通して、人間として成長させる。

「本物を見る・本物に触れる」ことを通して、知的好奇心を引き出し能動的な学習につなげる。

＜方策＞

- ① 学校行事全体の活性化を進め、全校生徒の成就感や達成感を高める。
- ② 「都立学校における部活動の特別強化プロジェクト」Premiere club の指定を受けたローイング部を始め、部活動においては、技能や記録の向上等、個々の生徒が目標を達成することや、思いやりの心や自主性・社会性を養い、豊かな人間関係を構築することを目指した活動を行う。
- ③ 部活動は合理的かつ効率的に実施し、学習と部活動とが両立できるよう、活動日及び時間等、部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドラインに基づいた活動を行うとともに、自主学習時間の確保及び支援等の充実を図る。また、地域貢献ボランティア活動「1クラブ一善運動」に取り組み、江戸川区役所や地域の小中学校等、地域との交流等をととして社会の一員としての自覚を養う取組を推進する。
- ④ 校内・校外での本物体験を推奨する。理数研究拠点校として、科学の甲子園やコンテスト等へも参加する。海外修学旅行、オンライン英会話、東京グローバルゲイトウェイ体験、オンライン及び対面での交流等により、国際理解教育を推進する。
- ⑤ 避難訓練、防災訓練、生徒による防災支援隊を通して、自助・共助の意識を高める。町会等、地域との連携をより強化した防災教育を実践する。
- ⑥ 体育の授業や部活動を通して体力向上を図る。体力テストにおいて、すべての学年で全国平均以上となるようにする。
- ⑦ 海外修学旅行委員会において、前年度の成果と課題を共有し改善を図るとともに、令和10年度入学生以降の実施について検討する。

オ 募集・広報活動

＜目標＞ 総務部を中心とした全校体制での魅力発信により応募倍率の向上に取り組む。

＜方策＞

- ① 新入生・中学生・保護者等のアンケート結果を分析し、効果的で効率的な時期や方法募集・広報活動に向けて改善を図る。
- ② 本校の特色ある教育活動の魅力を伝えられるよう全教職員で共通理解し、広報活動に取り組む。発信、訪問、学校見学(説明会)、個別相談のそれぞれの活動を集中的に行う時期を設け全校体制で取り組む。
- ③ 日常の本校の取組が十分に伝わるよう、ホームページ更新については学年、分掌、部活動に担当者を置き、確実に発信を行う。記事の掲載に必要な機器(カメラ等)を確保するとともに、掲載方法について校内研修を行う。生徒の活躍(学習、行事、部活動等)は顧問及び各学年担当が一両日中に学校ホームページに掲載する。特に部活動については定期的な発信の他、大会等への参加について積極的に発信する。
- ④ 公開している行事については、ポスター等の送付を確実に行う。特に中学校への周知については、進路指導の時期を踏まえて行う。行事については準備期間についてもホームページで生徒の取組の様子を発信する。
- ⑤ 中学校への広報活動に加え、学習塾等への組織的な訪問及び学習塾対象の授業見学会や説明会を実施し、本校の特色ある教育活動を伝え、募集・広報活動を推進する。

カ 学校運営・働き方改革

＜目標＞ 「チーム小松川」として、協力して新しい時代の学校を創り上げていく職場環境作りを進める。

＜方策＞

- ① 教職員一人一人が人権意識を養い、アサーティブなコミュニケーションを心がけ、職場の協働性・

心理的安全性を確保し、同僚性の向上を図るとともに、体罰やハラスメントを見逃さない職場を目指す。

- ② 部活動指導員・外部指導員の活用、ICTを活用した会議や情報共有等により、業務量の削減と時間の短縮に取り組む。月1回の定時退勤日を設け、年平均月2回以上の定時退勤を目指す。
- ③ チューター制度等による新規採用教職員への支援と育成を行う。産業医面接に加え、アウトリーチ型相談事業を活用したメンタルヘルスケアを行う。
- ④ 校内研修により、教職員の資質・能力の向上を図る。特に、服務事故防止、進路指導・学習指導・教育相談、デジタルツールの活用について重点的に行う。服務事故については、服務事故防止月間（年度当初・前期・後期）の他、「使命を全うする」「ふくむニュース」を活用した企画調整会議及び職員会議での注意喚起、自己点検、入試業務前のヒヤリハット研修を行う。
- ⑤ 分掌・学年・教科が年度当初に組織目標を定め、中間報告、年度末総括を行う。年度末総括においては学校評価アンケート結果等も踏まえ、課題を明確にし、方策を立てる。
- ⑥ 施設・設備の管理・保全と迅速な補修に努め、安心安全な学習環境の整備を行う。職員室環境改善事業に係る事業を活用した休憩室、面談コーナーの確保等やトイレ等の改修計画を進める。
- ⑦ 経営企画室において、経営参画ガイドラインを活用して、資質・能力と経営参画意識の向上を図る。
- ⑧ 登下校時間後の校門の閉鎖及び来校者管理、防犯カメラの増設により生徒の安全・安心に努める。

（２）重点目標と方策(数値目標)

項目	目標	項目	目標
① 生徒の学校に対する満足度（肯定的評価）		学力検査による入選の応募倍率	1.2倍
学校生活の満足度	95.0%	ホームページの更新回数 各学年・分掌・部活動10回以上	300回
進路実現に向けての授業への満足度	85.0%	⑥ 文武両道の実現	
講習・補習への満足度	90.0%	家庭学習時間 学年+1時間以上	100%
三大学校行事に対する満足度	90.0%	英語実用技能検定2級（CEFR B1）以上	85.0%
② 生徒の希望進路の実現（現役）		部活動加入率	95.0%
国公立大学合格者数	100名	生徒の勉強と部活動との両立に対する肯定割合	80.0%
早・慶・上智・理科大合格者数	90名	遅刻者数（学校全体の1日平均）	3人以下
学習院・明治・青山・立教・中央・法政大合格者数	300名	地域貢献ボランティア活動へ参加した部活動数	30部
進学率	90.0%	⑦ 安心安全な学校づくり	
③ 大学入学共通テスト		特別支援教育に関する委員会の開催	10回
大学入試センター試験出願率	95.0%	SOSの出し方、生命尊重に関する取組	3回
6教科8科目型の受験者	170名	学校事故件数	0件
得点率80%以上が受験者の半数以上の科目	5科目	⑧ ライフ・ワーク・バランスの実現	
④ 授業改善に向けた校内研修の実施		定時外勤務時間月80時間以上人数（前年度比）	30%減
授業に対する校内研修（相互参観）への参加回数	3回	定時退勤2日以上的人数	100%
⑤ 応募倍率の向上		職員会議・企画調整会議ペーパーレス化	100%
推薦による入選の応募倍率	2.0倍	計画的な予算執行・センター契約率	55%